

ESG／環境関連活動

安全・環境担当役員インタビュー

環境配慮と事業成長を両立すべく、
挑戦を続けています常務執行役員
第一事業本部担当

村井 俊二



かけがえのない地球を未来へ

太陽誘電は、経済価値と社会価値の両輪で企業価値向上を目指す中期経営計画2025のもと、環境への取り組みをグループ全体で加速させており、かけがえのない地球を将来の世代に引き継ぐため製品の研究、開発・設計、原材料の調達、製造、販売、付随するサービスその他あらゆる事業活動における環境負荷の低減に取り組んでいます。これは単なるスローガンではなく、企業としての存在意義そのものに関わる挑戦と考えています。環境への取り組みにおいて特に注力しているのが、温室効果ガス(GHG)排出量削減と、サーキュラーエコノミーの推進です。

GHG 排出量の削減を加速

2024年度のGHG排出量の削減は、2020年度比16.8%の削減目標を大きく上回る20.9%となりました。

例えば省エネの取り組みでは、積層セラミックコンデンサ(以下、MLCC)を製造する、玉村工場内に新築した工場がZEB Ready認定を取得しました。ここでは先進的な建築設計と高効率なインフラ設備の導入によって大幅な省エネ化を実現しています。新工場の設計思想はグループ内の既存工場にも展開し、新しい視点での見直しによる改善にもつながっています。

また、再生可能エネルギーの導入も着実に進展しています。2024年度には新たに3拠点で太陽光発電を開始し、グループ全体では13拠点で発電を実施しています。R&Dセンターでは蓄電設備も併設し、発電された電力の最大活用と再エネへの切り替えにより、使用電力の100%再エネ化を実現しました。2025年度には高崎グローバルセンターでも太陽光発電を開始し、国内拠点の再エネ化を更に推進する計画です。

PETフィルムの再生技術によって、
サーキュラーエコノミーを実践

サーキュラーエコノミーに関しては、水資源の保全と廃棄物削減に取り組んでいます。その取り組みの1つが、MLCC製造工程で排出されるPETフィルムのケミカルリサイクルです。国内企業と連携し、添加物などの不純物を除去した高純度モノマーへ再生する取り組みを2026年度より順次導入する予定です。PETフィルムは、添加物などの不純物の除去が難しいことからこれまででは循環が困難でしたが、ケミカルリサイクルすることでPETフィルムを始めとする様々なPET製品に幅広く活用することができます。廃棄物の多くを占めているPETフィルムの循環が可能になったことで、サーキュラーエコノミーの実践が前進するものと期待しています。

未来に向けた挑戦

これらの取り組みは単なる環境対策にとどまらず、企業価値の向上と持続可能な社会の構築に直結するものです。太陽誘電は、SBTの1.5℃目標に整合したGHG削減目標を掲げ、2025年3月にはNear-Term Targetの認定も取得しました。GHG排出量削減目標の達成期限である2030年に向けて、事業活動と一体となった環境施策を緩めることなく推進し、オフサイトPPA※の導入なども含めて再エネ活用を強化していきます。「環境への責任は、未来への約束」という信念のもとで、今後も持続可能な未来に向けた歩みを進めていきます。

※自社の敷地外にある再生可能エネルギー発電所から再エネを購入する仕組み